



横浜市立恩田小学校 学校だより 9月号

発行 平成30年 8月27日



サルスベリ

身近な地域から豊かな自然を感じて

校長 古屋 澄人

今年の7月から8月にかけて、全国的に記録的な猛暑が続きました。夏休みに入る前は、子どもたちの安全を第一に考慮し、外遊びを制限したり特別水泳教室の一部を中止したりするなどの措置をとりました。7月31日に行われた青葉区水泳記録会においても、会場校のプールサイドに日よけとしてブルーシートを張り、水分を十分取るなどの熱中症対策を施しての実施となりました。参加した27人の子どもたちは自己記録の更新に向けて日頃の水泳学習や特別水泳教室での練習の成果を発揮することができました。

さて、今年の夏の暑さは昆虫たちにも影響があったようです。7月に昆虫に詳しい方のお誘いを受けて昆虫の観察会に連れて行ってもらいました。自然の中でクヌギの樹液をすっているカナブンやカブトムシ、ノコギリクワガタの姿は、私が子どものころに見た光景そのものでした。「断定はできないが、特に今年の夏はカブトムシやクワガタムシの羽化が早く小さな個体が多い」とのことでした。横浜市や町田市周辺にもカブトムシやクワガタムシが生息するこのような豊かな自然が存在することに驚き、この自然を残していきたいと改めて感じました。

校長室でもカブトムシ、ノコギリクワガタ、ミヤマクワガタ、コクワガタなどの昆虫の飼育をしています。昆虫に興味をもつ子どもたちは、校長室を訪れて観察していきます。観察するときの視点としては、諸感覚を使うことが大切になります。まずは「触ってみてその感触を体感する」ということです。触るのを怖いと感じている子もいます。そんな子には触ることができる子が「ここを持つといいよ」などアドバイスをする様子も見られました。次は「比較」です。カブトムシは幼虫から飼育していました。子どもたちは幼虫や蛹の形や色の変化をよく見えています。「色が茶色になってきたらそろそろカブトムシになるかな」と、カブトムシの成虫の色を根拠に蛹から羽化するタイミングを予想していました。生活経験や既習の知識をもとに根拠をもった予想を立てながら興味をもって昆虫たちと接している子どもたちの姿がありました。



＜クヌギの樹液に集まる昆虫たち＞

9月からは運動会に向けた活動が本格的に始まります。7月の代表委員会で子どもたちが決めた運動会のスローガンは「未来に向かって 一歩前進」です。子どもたちは、スローガンや学年のめあてに向けて競技や演技に取り組んでいきます。

熱中症に対する注意喚起は9月以降も継続していきます。十分な休憩をいれながら水分補給を行うことはもちろんのこと、教育活動における安全には十分配慮して取り組んでいきたいと思えます。各ご家庭におかれましても、お子様の健康管理には引き続きご協力をお願いいたします。